

■新緑が眩しい季節となりました

このたびの東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災地のみなさま、また被災地に御親戚やお知り合いのいるみなさまに心よりお見舞い申し上げます。東京支部では、ホームページに震災支援専用ページを立ち上げて被災者支援について取り組んでいる次第です。

不安の渦の中で新年度が始まりましたが、子どもたちをはじめ大人が心穏やかに生活することができるように、私たちが一人の人間として、また臨床発達心理士としてできることを東京支部の会員の皆様とともに考えていきたいと思っております。

■目次

1. 2010年度 第3回役員会議事略録
2. 2010年度 東京都特別支援教育事業への協力報告
3. 2010年度 研修会報告
4. 2011年度 「東京支部総会」および「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」のご案内
5. 事務局より

1. 2010年度第3回役員会議事略録

- 日時: 2011年3月6日13:30~16:00
- 場所: 文京区スポーツセンター会議室
- 出席者: 竹谷、東、菊地、坪井、小堀、田中、大隈、中内、松村

(1) 報告・確認事項

① 会計について

2009年度分のみ支部による徴収となっている。

現在、入金率は96%。未納者は2011年2月5日の時点で22名。

② 2011年度第2回資格更新研修会

第2回資格更新研修会はネットワークが持ち回りで企画する。

2011年度は特別支援教育NWが中心となり企画。

③ 全国大会について

実践セミナーは東京支部の特徴ある活動をアピールする機会

テーマ: 都立高等学校における支援

2. 2010年度東京都特別支援教育事業への協力報告

東京都教育委員会からの依頼を受けて、下記の学校の特別支援教育に関わっています。永福学園と青峰学園は平成23年度も継続して行います。高等学校については、継続事業となる予定ですが対象校や時間数の変更を4月現在検討中です。

(1) 都立特別支援学校への配置

永福学園と青峰学園の就業技術科に計5名を配置し、担任へのコンサルテーション、アセスメント、生徒・保護者相談、研修会などを行いました。

(2) 都立高等学校への巡回相談

チャレンジスクール5校(桐ヶ丘、大江戸、六本木、世田谷泉、稔が丘)、と八王子拓真高校を継続するとともに、23年度には新規に5校(浅草、蔵前工業、新宿山吹、科学技術、飛鳥)を加えて、計11校に12名が巡回相談を行いました。

(3) 高等学校における発達障害支援モデル事業指定校への協力

モデル事業2年目となる足立東高校に、引き続き巡回相談とコンサルテーションを行いました。

3. 2010年度研修会報告

■東京支部第2回資格更新研修会報告

日時:2010年11月14日(日)9:30~12:30 会場:日本大学文理学部 百周年記念館

講師:藤井和江(まめの木クリニック・資格無)

司会:宇賀神りり子(調布市子ども発達センター・有資格)

前半は、ペアレントトレーニングの意義についての講義であった。一般にADHDやPDDの子どもたちは周囲から叱責されることも多く、子ども保護者もともに自尊心や意欲が低下することも少なくない。保護者がトレーニングに参加し、子どもたちへのかかわりを工夫していくと、行動面だけでなく情緒やコミュニケーション面でも支援につながることを示された。

後半では、受講者3名が参加し、講師の先生がリーダー役となって、プログラムの実践が紹介された。子どもの行動を増やしたい、減らしたい、許しがたい行動の3つに分け、ほめる点を見つけることから開始し、わずかな変化でもほめる、ほめる際のタイミングや体の動き・表情に至るまで様々な点への配慮とほめ方のコツが示された。全体を通してリーダー役の先生による1つ1つのかかわりの奥深さを感じ取ることができ、ペアレントトレーニングのみならず、広く発達支援を考える際にも有益なものであったといえる。

日時:2010年11月14日(日)13:30~16:30 会場:日本大学文理学部 百周年記念館

講師:稲田尚子(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部・資格無)

司会:原恵子(上智大学・資格有)

前半が講義、後半が実習という形で研修会が行われた。

講義は、自閉症スペクトラム幼児のコミュニケーション行動の特徴とそのアセスメント方法について、以下の3点を中心に進められた。

- ① 3才までの自閉症スペクトラム幼児の対人コミュニケーションの特徴
- ② スクリーニングの方法
- ③ 直接行動観察の方法

後半は、健常児と自閉症スペクトラム幼児とのコミュニケーション行動の違いをビデオ視聴しながら、ターゲットとするコミュニケーション行動の有無や頻度について実習した。

■文京区巡回相談

第1回研修会報告

日時:2010年5月31日(月)18:30~20:20(0.5ポイント) 会場:文京区民センター 3F 3—B

講師:文京区教育委員会指導課統括指導主事 景山与賜也先生(資格なし)

文京区教育センター 石津 陽子先生(資格無)

司会・企画:松村裕美 坪井寿子

文京区における特別支援教育の事業内容について説明があった。巡回相談員との意見交換により、今後の巡回相談の在り方について検討した。巡回相談の実態を把握するために、巡回相談報告書の提案がなされた。

■子育て・発達支援ネットワーク

第2回研修会報告

日時:2011年1月29日(土)13:00~16:00 (取得ポイント:1ポイント)

会場:筑波大学付属大塚特別支援学校

研修テーマ:「地域ネットワークの中での子育て・発達支援」

講師:栗原はるみ氏(狛江市教育研究所・資格無)

司会:河島恵美子(うめだ・あけぼの学園・資格有)

前回の研修会では、様々なニーズを持つお子さんやご家族への支援を心理士ひとりで、一機関で支援することは難しいこと、相談先は増えても保護者が一つ一つ相談に行かなければならないこと、ケースごとに必要に応じて連携されているが、担当者がかかることによって継続のしにくさがあることなど、地域での支援状況が出された。そして関係者・機関が円滑に連携をし、タイムリーに支援を行っていくためには、地域にネットワークが必要ではないかという意見が出された。今回、栗原はるみ氏より、狛江市での子育て・発達支援の歴史・現状から「サポート狛江」の成り立ち・活動について、また就学時の連携についてご講演いただいた。その中で地域の特性を生かした支援システムや方法が必要で、それを活用していくためには様々な立場の人が事業を通してつながりを深めていくことが大

切であると感じた。終了後は、希望者のみであったが、高橋幸子氏(筑波大学附属大塚特別支援幼稚部)より施設見学、説明会を実施していただいた。参加者からは、前回行った地域別交流会や会場となる施設の見学説明会の希望なども出され、今後の研修会でも継続していきたいと考えている。

参加者の意見

- ・講演について:地域による違いを知り、地域性を生かした機関や人のネットワークの大切さを感じた。狛江市では就学前後の相談・支援担当者が同じというよさがあるとのことだが、就学で支援を途切れさせない工夫が必要である。また、地域の全ての子どもたちの育ちを見守り支えるシステムづくりは学ぶものがあった。
- ・今後のネットワークづくりについて:東京を分けて近いエリアでの情報交換会をつくりたい。他区の情報を紹介できる掲示板づくり。就学前後をつなぐ視点での事業を知る。専門職としてのスキルアップ。現在の子育て事情とその取り組みについて知りたい。

■特別支援教育ネットワーク

第2回研修会報告

日時:2010年8月22日(日)14:00~17:00(取得ポイント:1ポイント)

会場:東京都立王子第二特別支援学校 会議室

講師:梅永雄二(宇都宮大学 教育学部 教授・無資格者)

司会:菅原真弓(立川市立第七小学校・有資格者)

現在、特別支援教育に携わっている教員(主として特別支援教育コーディネーター)や今後その可能性のある教員、そして巡回相談等に携わっている心理職を対象に、発達障害がある子どもへのライフスキルトレーニングについて学び、意見交換をする事を目的とした。

前半は、講演会で以下の内容とした。

「自立を見ずえた 発達障害がある子どもへのライフスキルトレーニング」

後半は、3グループに分かれて参加者間での意見交換を行った。

第3回研修会報告

日時:2011年1月23日(日)14:00~17:00(取得ポイント:1ポイント)

講師:宇賀神るり子(調布市子ども発達センター・有資格者)

司会:田中雅子(都立中野特別支援学校・有資格者)

会場:東京都立王子第二特別支援学校 会議室

特別支援教育に携わる者にとって、児童・生徒の実態把握に関する知識と経験は、その後の支援計画を作成する上で重要な意味をもつ。発達障害をもつ児童・生徒を理解する際には、行動観察に加えて、心理検査による客観的データをいかに読み取るかという事も重要である。しかし、心理職として日々検査に係わっている場合を除き、学校現場では実際に検査を実施する機会は少ない。今回は、このような状況を鑑み、WISC-Ⅲの検査結果及び行動観察等によるデータを元に事例検討を行い、よりよい支援のあり方を検討した。

正田氏からは、児童の実態やWISC-Ⅲのプロフィール、教員の関わりなど、事例を提供した。事例提供を受けて、宇賀神氏より「WISC-Ⅲを支援に活かすために」というテーマで「検査場面での行動」や「検査結果から把握できた認知特性」「指導方針を立てる上での観点」など支援者として見落としてはいけないポイントを提示した。

宇賀神氏の提示を受け、各グループ(5~6人。教員と心理職と半分ずつの構成。WISC-Ⅲを取った件数を参考に各グループ平均化した。)で1時間グループ討議を行い、指導方針(総合的アセスメント)を検討した。

事例検討+グループ討議というスタイルは参加者から好評であったが、グループ討議の時間が1時間と短く、具体的な支援策の検討には至らなかった。またグループの構成メンバーを教員と心理職と半々にしたのも「普段と違うフィールドのメンバーと意見交流ができよかった」と好評であった。

■発達臨床研究ネットワーク

第2回研修会報告

日時:2011年2月27日(日)13:00~15:30(取得ポイント:1ポイント)

会場:首都大学東京

テーマ:「コミュニケーションの支援と情動」

講師:小野里美帆(文教大学・有資格者)

吉川知夫(城南特別支援学校・有資格者・千葉支部)

須田 治(首都大学東京・有資格者)

司会: 須田 治 東 敦子(のぞみ発達クリニック・有資格者)

小野里氏より、発達支援におけるコミュニケーションと情動の発達についての概論が説明された。自閉症児の SCERTS モデルでは、情動調整能力の発達水準として、行動方略、言語方略、メタ認知方略の3つの水準が提示されているが、どの方略が優れているかという視点ではなく、どの方略にもそれぞれの機能があり、発達状況や情動状態に応じた方略を選択できるように支援していくべきとお話があった。

吉川氏からは重度重複障害児のコミュニケーション支援について、指導者とのこまやかなやりとりの分析から、共同注意と要求伝達行動の発達変化が身体あそびや物を介した遊びによって展開していく過程が報告された。須田氏からは生後間もないときから、乳児が徐々に自己の覚醒状態を適切な水準に保てるようになっていくこと、その後、言語の表象機能を獲得していく過程で、感情が自我の発達と関連しながら芽生えてくる意義について説明があった。

4. 2011 年度「東京支部総会」「第 1 回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」のご案内

下記の要領にて、2011 年度「東京支部総会」「第 1 回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」を開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

■日 時: 2011 年 6 月 26 日(日) 9:30~16:30 受付 9:00~

■場 所: 日本大学文理学部 百周年記念館 国際会議場

最寄り駅 京王線「下高井戸」OR「桜上水」徒歩7~10分

http://www.chs.nihon-u.ac.jp/access_map.html



■参加費: 資格更新研修会のみ 1000 円(他支部 2000 円) ネットワーク研修会は無料(他支部 2000 円)

■研修会1 午前の部(9:30~12:00) ネットワーク研修会 受付 9:00~ A区分研修 0.5 ポイント

東京支部では会員相互の情報交換と主体的な活動を促すために、3つのネットワーク活動を展開しています。第1回目のネットワーク研修会は、A~Cのいずれかを選んでご参加ください。途中での入室・退室はご遠慮ください。レジメの配布も参加者のみとなります。

研修会参加後に、「ネットワーク・メンバー登録」をしていただきます。研修会に参加できない場合は事務局までご連絡ください。複数のネットワークに所属することも可能ですが、ネットワーク・メンバーは、今後の研修会の企画と運営に主体的にかかわっていただきたいと思っております。2回目以降のネットワーク研修会は日程を重ねないように企画します。連絡はメールやHPでお知らせします。

NWメンバー同士の連絡はメーリングリストで行い、活動の報告は東京支部HPの掲示板に掲載します。

A: 発達臨床研究ネットワーク

テーマ: 「発達臨床における質的研究をどうすすめるか」

講師: 箕浦康子氏(お茶の水女子大学名誉教授)

話題提供: 本郷美奈子氏(のぞみ発達クリニック)

要旨：従来の臨床研究では、支援仮説をあらかじめ立て、変化を数値的に捉える量的研究法が主流でした。近年臨床実践の知を生み出していく方法としてのみならず、臨床実践をちがう角度から振り返る方法として、質的研究がクローズアップされています。しかし、質的研究法を大学で学んだ人は多くありません。そこで、今回は、質的研究の第一人者である箕浦先生をお迎えし、臨床の場を研究の俎上にどうのせていくかを探ります。

B:子育て・保育ネットワーク

テーマ:「地域の中での子育て・発達支援 ～地域資源の活用と連携、移行支援、就学前後の支援を通して考えよう～」

話題提供:金上容子 氏(こども発達扇橋センター)

要旨:今回は参加する皆さんそれぞれが、地域資源の活用、関係者(機関)との連携などについて考え、意見を交換し合う・助言し合う・地域の情報を交換し合う研修を企画しています。ご自身の地域や所属機関、また担う事業でのことをより具体的に考えて話し合うために、「就学前後の支援」をテーマにしました。幼児機関と学校では、支援する機関・人が変わります。どのように支援をつなぐのか、また学齢期にはどのような支援体制があってどう活用できるのか、幼児期に関わる私たちは移行支援をどのように考えて何を大切するのかなど、意見交換・情報交換ができることを期待しています。

C:特別支援教育ネットワーク

テーマ:「特別支援教育の今後について考える part2」

話題提供:①朝日滋也 氏(東京都教育庁指導部 特別支援学校教育担当課長)

「東京都特別支援教育第3次推進計画概要説明 及び 臨床発達心理士に期待すること」

②正田康恵 氏(東京都立武蔵台特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)

「特別支援学校のセンター的機能を活用した就学相談支援」

③菅原真弓 氏(立川市立第七小学校 通級指導学級あすなろ学級担任)

「発達障害の児童・生徒への指導内容、指導方法の工夫～通級指導学級の役割～」

要旨:今回は、東京都特別支援教育第3次推進計画について朝日先生からご説明いただき、推進計画を実践している立場の特別支援学校と通級指導学級の現場から話題提供いたします。

学校現場の教員はもちろん、スクールカウンセラーや巡回相談等で小中学校に関わりを持っている心理職の方も、ぜひご参加ください。みなさんと東京都の特別支援教育の今後について考える機会としたいと思います。

■ 2011年度 総会(12:00～12:30)

2011年度の東京支部の活動計画、予算など、会員の皆様に大切なお知らせを伝える場です。

是非、ご参加ならびにご協力をお願い申し上げます。

*出席の方も、欠席の方も、東京支部ホームページ(<http://www.jocdp-tokyo.net>)より登録をお願いします。

特に「欠席」の方は、議決権の委任に関する登録がありますので、必ずご登録いただきますようお願いいたします。

ホームページでの登録ができない場合は、メールにて<東京支部事務局 jimu@jocdp-tokyo.net>までご連絡ください。

■ 研修会2 午後の部(13:30～16:30) 資格更新研修会 受付 13:00～ A区分研修1ポイント

テーマ:障害児支援の改革動向

一平成22年12月改正児童福祉法と子ども・子育て新システムを見据えて一

講師:柏女霊峰(淑徳大学)氏

要旨:子ども・子育てビジョンの理念と子ども・子育て新システムの基本構想、3つのワーキンググループの動きについての最新情報や、自立支援法から総合福祉法への動きと総合福祉法の概要についてお話いただき、これらの動きを踏まえたところでの、子育て新システムにおける特別な支援を必要とする子どもへの対応について、お話いただきます。

遅刻者、早退者には、ポイントが交付されません。午後の受付にも遅れないようにお願いします。

<受講条件> 下記2項目を満たしていることが必要です

1. 日本臨床発達心理士有資格者であること
 2. 今年度分までの会費(全国士会・支部会費のいずれも)を納めていること
- ※ 他支部の方の参加もお受けしますが、定員を超える場合は東京支部会員を優先します。
※ 毎回、当日参加の方が多く、資料不足などのご迷惑をおかけしております。
以上の点を考慮して、事前申し込みとさせていただきます。

<申し込み方法>

1. HPよりエントリーしてください。
2. メールでのお問合せは、《東京支部事務局 jimuj@jocdp-tokyo.net》まで。
* 席に空きがある場合のみ、先着順に当日参加をお受け致します。

研修会および総会参加申込締切:6月20日 <http://www.jocdp-tokyo.net/>

<諸注意・・・必ずお読みください。>

- IDカード、資格更新研修会参加記録ノート(以下、記録ノート)を必ずご持参下さい。
お忘れの場合、ポイントは発行できません。
- 会費納入の確認として、振替払込受領書を記録ノートの後ろに添付してください。
- 記録ノートに必要事項をご記入の上、受付を行って下さい。記録ノートは、研修会終了後にお返します。
- 遅刻者には、ポイントを交付できません。

5. 事務局より

■東京支部の震災ボランティア活動について

東京支部では、「臨床発達心理士会東日本大震災支援対策本部」と連動し、ホームページやメールなどで、会員の皆様へ震災ボランティア情報をお伝えしています。詳しくは別紙をご覧ください。すでに、東京支部ではホームページ上で震災ボランティアの登録を開始しましたところ、70名を超えるボランティア登録をいただきました。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

4月10日のボランティア説明会にも、40名を超える参加があり、前川あさ美先生による「被災地における発達支援」というテーマで震災支援に必要な心構えを学びました。また、地域のボランティアリーダーを決定し、都内の避難所の実態調査をしていただいています。その結果は東京支部HPの震災支援専用掲示板に随時報告していき、ニーズがあれば支援を開始していきます。

被災地へのステイ型支援のニーズは今後も継続していくものと思われます。ステイにかかる費用は原則個人負担となりますが、ボランティア活動保険は東京支部が負担し、「臨床発達心理士会震災支援活動基金」にて補填していく予定です。一人でも多くの会員の方にご協力いただきたいと願っておりますので、ぜひとも、さらなるご理解のほど、よろしく願いいたします。

■メールアドレス登録とホームページ活用について ★重要★

「東京支部ニューズレター」は東京支部のホームページ上に掲載し、「メール配信」にて随時会員にお知らせをします。

<http://www.jocdp-tokyo.net>

ホームページ上の掲示板(みんなの広場)のパスワードは

ユーザー名: tokyo (小文字です)

パスワード: 21 (小文字です)

なお、アドレス登録のない方への郵送は今回をもって終了する予定です。HPを随時見て

いただくか、メールマガジン送付のためにアドレスの登録をぜひお願いいたします。

- ご連絡:東京支部事務局・東 敦子(のぞみ発達クリニック)jimuj@jocdp-tokyo.net



臨床発達心理士会・会員の皆様 「災害支援ボランティア登録」のお願い

臨床発達心理士・東日本震災支援対策本部長（士会・幹事長） 長崎 勤

今回の震災は私たちの国にとって未曾有のものとなりました。私たち臨床発達心理士会としても、私たちの専門性を生かし、可能な限りの被災された方々への支援を行っていきたくと考えています。

<支援方針>

災害地、避難者のニーズを把握し、長期的展望に立ち、士会・支部としてできることから支援を行っていきます。

<支援方法>

以下の2つの方法があります。

- ① 災害地に滞在し支援する「ステイ型支援」
- ② 所属支部近辺の避難所に通って支援する「日帰り型支援」

<支援内容>

避難所での、養育者からの子どもの相談支援、子どもへの保育的サービス、障害児の支援などが中心になるかと思いますが、当面は“なんでも”やる「ゆるやかな専門性」も必要です。また、ボランティアの事前教育、ディフューズ（ふりかえり）も不可欠で、そのための資料の提供等も士会として、行っていきます。行政、NPOとの連携、特に士会東北支部とは密接な連携を取りながら行っていくことは不可欠となります。

そこで、皆さんにお願いがあります。皆さんがボランティアでできることを登録して頂きたいと思います。所属の支部を通して登録し、具体的な行動計画が決まり次第、支部より登録いただいた方々に連絡をいたします。

<重要な条件>

(1) 支援の際の交通費、その他ボランティア自身の実働に必要な経費は自己負担を原則とします。ただし、「災害支援活動資金」を活用し、一部を援助する可能性があります。

(2) 保険は必ず掛ける必要があります。所属支部がボランティア保険を負担します。

今後、支援は長期化するものと思われます。それぞれ会員の勤務の都合、家庭の事情によって、できることから支援を行っていきましょう。実働はできないが、応援したいという方は「震災災害支援活動基金」への募金活動でボランティア活動をする会員への後方支援をお願いいたします。

【問い合わせ先】

- 「ステイ型支援」に関しては、東日本災害対策本部・災害地支援部門
代表：堀江まゆみ宛 info-saigai-jocdp@shiraume.ac.jp
- 「日帰り型支援」に関しては、東京支部事務局
事務局長：東敦子宛 jimu@jocdp-tokyo.net

一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構
日本臨床発達心理士会
東日本災害支援対策本部長 長 崎 勤

臨床発達心理士 災害支援活動基金への協力願い

このたびの東日本地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会 東日本震災支援対策本部では、被災されて現地で避難所生活を余儀なくされている皆さま、広く国内の遠隔地域へ避難されて新しい生活を始めている皆さまへの支援活動を開始しました。内容は、子どもの心のケア心理相談支援、高齢者相談支援、遊び場や学習の場支援など柔軟で多様な支援を必要に応じて提供していきます。活動方法としては、被災地に行って1週間を単位とするステイ型支援の活動、会員が生活圏の近隣で行う日帰り型支援活動になります。

このような会員の活動を支えるための「臨床発達心理士 災害支援活動基金」は、それぞれの支援活動で必要な教材や資材・資料、会員の活動支援（ボランティア保険など）に生かす所存です。この趣旨にご賛同いただける方は、会員の内外を問わず、お心を寄せていただきますようお願いいたします。

記

趣旨：一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会は、本会として行う災害支援活動への活動資金を一口 3,000 円として、会員内外に広く募金活動を行う。

●郵便局からの振り込み：

口座記号番号：00140-6-750220

加入者名：CDP災害支援活動基金

●他の金融機関からの振り込み：

「ゆうちょ銀行」〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）

科目：当座

口座番号：0750220

受取人名：CDP災害支援活動基金

*「ｼﾞｬﾝﾃｲﾋﾟｰｻｲｶﾞｲｴﾝｶｯﾄﾞｳｷﾝ」と表示されます。

募金額：一口 3,000 円として、何口でも可。

手続き：

<郵便局から振り込みの場合>

- ①振替用紙に必要事項及びメールアドレスと、会員の方は会員番号をご記ください。
- ②窓口にて払込(払込料金 70 円～)または、郵貯ATMや郵便振替自動受付機で送金して下さい。
- ③後日、振替用紙に記載された住所・氏名宛に領収書を発行します。確定申告の際の寄付金控除にご使用ください。

<他の金融機関からの振り込みの場合>

- ①会員の方は、振り込みに際し、「振込依頼人名」には、依頼人名の前に会員番号を記入・入力のうえ振り込みください。(例) 00000 シカクウ
- ②他行から振り込みの場合は、領収書の発行はできません。領収書をご希望の方は、郵便局(郵便口座)からの振り込みをご利用ください。

なお、募金総額、会計報告は日本臨床発達心理士会HPにて公示します。

一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会

〒160-0023 新宿区西新宿 8-5-9-10A

FAX：03-5348-5902

e-mail：shikaku@jocdp.jp

URL：http://www.jocdp.jp/